２０２３年１１月２日／発行：東北農業経済学会事務局

東北農業経済学会 Newsletter 2023 秋号

第 59 回 青森大会報告

2023 年 9 月 23～24 日に、第 59 回大会（青森大会）が、弘前大学農学生命科学部で開催されました。新型コロナの影響で 2020 年から 3 年間はオンラインでの開催となりましたので、対面での開催は 2019 年の宮城大会以降、4 年ぶりとなりました。大会シンポジウム（9 月 23 日）は、「みどりの食料システム戦略と東北農業の多様性」をテーマに、当方と野中章久会員（三重大学)が座長を務めました。

座長解題の後、第 1 報告では鵜川洋樹会員（秋田県立大学名誉教授）から「みどりの食料システム戦略と東北農業経営の展開方向」、第 2 報告では渡部岳陽会員（九州大学大学院）から「東北農業構造の到達点と展望―2020 年農林業センサスなどを用いた統計分析をふまえて―」、第 3 報告では安江紘幸会員（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）と大湯周世氏（株式会社アップルファクトリージャパン）のお二人から「生産者と実需者の連携による地域農業の展望―青森県におけるリンゴ加工専用園の取り組み―」、第 4 報告では小川勝弘氏（岩手県紫波町）から「農地の需給見通しを踏まえた地域農業の複合的展開―岩手県紫波町の取り組みを事例として―」の報告をそれぞれいただきました。その後、岡田直樹会員から（秋田県立大学）コメントをいただき、ディスカッションが行われました。

翌日に行われた個別報告では、全 26 報告を 4 会場に分けて対面で実施されました。ひさしぶりの対面での大会の開催でしたが、多数の会員のみなさまにご参加いただけました。ありがとうございます。また、ご協力いただいた全ての方々に深く感謝申し上げます。

青森大会実行委員会
委員長　泉谷 眞実（弘前大学）

役員会・総会報告

青森大会の開催に併せて 2023 年 9 月 22 日（金）に役員会が、9 月 23 日（土）に総会がそれぞれ開催されました。主な内容は次の通りです。

１．2022/23 年度の活動について

１）会員数の動向（2023 年 9 月 8 日現在）

個人会員 256 名（うち正会員 213 名、学生会員 28 名、名誉会員 15 名）。団体会員 5 団体。

２）2022/23 年度　事業報告

2022 年

8 月 新理事会（オンライン 27 日）

9 月 臨時常務理事会開催（オンライン 30 日、学会企画出版「東北水田農業の展開と将来像」の科研費研究成果公開促進費への申請取り止めについて）

10 月 臨時常務理事会開催（メール稟議、農山村地域調査における集落全数調査継続に関する要望書の提出）
ニュースレター2022 秋号 発行

2023 年

2 月 農村経済研究第 40 巻第 2 号（論文特集号）発行

3 月 2022/23 年度第 1 回常務理事会開催（オンライン 16 日）

5 月 ニュースレター2023 年春号 発行
2022/23 年度学会賞候補者募集
2023/24 年度研究助成募集

7 月 2022/23 年度第 2 回常務理事会開催（オンライン 21 日）

9 月 学会役員会、諸会議（弘前大学、22 日）
第 59 回青森大会開催（弘前大学、23-24 日）
学会総会（弘前大学、23 日）

２．学会誌の編集・発行について

事業計画をご覧ください。J-STAGE への論文搭載は、学会誌発行から 2 年後を予定しています。

３．2022/23 年度学会賞の選考結果について

次の記事をご覧ください。

４．2023/24年度研究助成対象者選考結果について

Lim Geonwoo会員（東北大学大学院）への助成が決定。

５．2023/24 年度事業計画について

以下の内容で承認されました。

１）常務理事会開催（2024 年３月、7 月下旬～8 月上旬）

２）「農村経済研究」発行

第 41 巻第１号（新潟大会特集号）

第 41 巻第２号（論文特集号）

３）第 60 回大会開催

４）2023/24 年度学会賞表彰

５）2024/25 年度研究助成

６）ニュースレター発行

2023 年 10 月(2023 秋号)

2024 年５月下旬(2024 春号、大会案内を同封)

７）学会出版企画「東北水田農業の展開と将来像」の発刊

８）J-STAGE への論文搭載

９）団体会員の拡充（各県及び農協中央会、土地連、農業共済組合、農業会議、農業公社等、団体会員への入会呼びかけ。県担当理事を通じて交渉）。

６．2023/24 年度大会開催地について

山形県での開催が承認されました。

７．名誉会員への推薦について

小沢 亙 氏（元 山形大学・教授）を名誉会員に推薦することで決定。

2022/23 年度学会賞

2022/23 年度東北農業経済学会賞（木下賞）奨励賞、実践賞および学会誌賞は、以下のように決定しました。受賞理由は以下のとおりです。青森大会にて開催された総会後に表彰式が行われました。

１．学術賞

◆受賞者：鵜川 洋樹 氏（秋田県立大学名誉教授）

◆受賞対象：『飼料用米の生産と利用の経営行動』

◆受賞理由：本書は、コメ生産調整政策のもとで作付けられる飼料用米を「国産濃厚飼料」と位置づけ、その本作化をわが国畜産の安定化の前提としており、こうした分析視角は、畜産経営研究をライフワークとして従事してきた筆者独自のものである。また、飼料米生産をコメ生産調整政策の下での水田経営の経営対応に限定せず、「食料の安定供給の確保」や「農業の持続的発展」という基本法の理念の実現に向けて、経営行動を規定する政策条件の検討に広げてアプローチしており、飼料米等の生産と利用を、水田経営、畜産経営の個別問題とせず、『国産飼料の低コスト化と高品質化を推進する本格的な耕畜連携の在り方』として捉えている。こうした視覚は、コメ生産調整政策を含む政策の流動化や、濃厚飼料を含む市場条件の不安定化等への対応が個別経営では限界が大きいことを背景としており、本書における強い説得力と高い実践性を寄与するものとなっている。さらに、本書の大きな特徴は、営農現場の実態に立脚する研究スタンスであり、各章で東北地域の現場の実態が丁寧に記述され、論考を確固で、わかりやすいものとしている。このように、本書は、飼料用米等を対象に持続的畜産の確立の方向を検討した優れた理論書ながら、同時に実践的性格も有し、これからの飼料米をめぐる政策と現場の双方に重要な視座を提供している。とりわけ水田経営と畜産経営双方の再構築を喫緊の課題とする東北農業に対し、多くの示唆を与えるものである。さらに、現場に立脚する真摯なスタンスと明快な論理構成は、多くの若手研究者の模範となることが期待される。以上、本書の東北農業及び東北農業経済学会への学術的貢献は多大であり、東北農業経済学会賞（木下賞）・学術賞の授与にふさわしいものである。

２．奨励賞

◆受賞者：唐 冠琰 氏（東北大学）

◆受賞対象：『女性農業者の活躍推進と世代交代に関する研究』

◆受賞理由：受賞者は、岩手県および宮城県の女性農業者を対象に、世代別エンパワーメントの特徴に関する研究を行ってきた。対象業績では、両県の世代別女性農業者を対象にライフヒストリー分析を用いて、世代別に女性農業者の同異点を整理して、その特徴を摘出している。さらに、関連業績では、若い世代の女性農業者のパーソナルネットワークに着目し、ネットワーク分析を用いて、人的ネットワークの構成規模やその質量の変動と活動志向を類型化し、経営発展との関係性を整理している。そして、これらの研究をもとに博士（農学）を取得しており、これらの研究成果は、一貫して東北地方を対象として女性農業者の活躍推進と世代交代に関する内容として、これからの東北農業の発展に寄与するものと期待できる。さらに東日本大震災の津波被災地域における農業再生の取り組みを整理した論文では、被災を経験した生産者の農村復興への想いやその経営過程を丁寧に整理した内容となっており、共著者である被災した生産者からも高い評価を得ている。今後はさらに、具体的

な施策への反映など、研究で得られた知見の実践的な活用方法についても研究が深まることを期待したい。以上、候補者の業績は将来の発展が期待されるものであり、東北農業経済学会（木下賞）・奨励賞の授与にふさわしいと評価する。

３．実践賞

実践賞は、以下の二つに決定しました。

実践賞①

◆受賞者：株式会社アグリーンハート

◆受賞対象：『スマート農業×有機農業で子どもたちに希望と笑顔を与える楽しい農業』

◆受賞理由：受賞者は、地域特性に応じて有機農業とスマート農業という２つの軸を融合した魅力ある農業経営を実践している。また、この農業経営の実現にあたり、地域の多様な担い手を積極的に活用する取り組みなど、時代の変化に応じた人材育成を図っている点も特筆される。さらに、それらを地域農業全体で共有するべく、地域と連携した多様な活動を行っており、地域農業の中心的な担い手として欠かせない存在であり、今後、より一層の発展が期待される。そして、同社が掲げる「スマート農業×有機農業で地域をデザインする」という経営理念にあるように、その実践活動は、単なる生産技術・経営の高度化に留まらず、地域農業の今後のあり方に新たな活路を提案するものであり、次世代の農業経営体として、黒石市のみならず中山間地域の農業発展に貢献するものと期待される。以上の点から、東北農業経済学会賞（木下賞）の実践賞の授与に相応しいものと評価する。

実践賞②

◆受賞者：小川 勝弘 氏（岩手県紫波町）

◆受賞対象：『エビデンスに基づく政策立案とその実践による農業現場の課題解決』

◆受賞理由：受賞者は、県職員時代に培った経験やスキルを活かし、紫波町を対象に地域農業の現状分析を行い、多数の調査報告書としてとりまとめ、ホームページ上で公表しているほか、農業現場の課題解決に実践的に取り組んでいる。特に、「農地有効活用リーディングプロジェクト」を創設し、プロジェクトの実施にあたっては、役場内はもとより、生産者、研究者、民間企業等と連携して取り組みを行う仕組みを早期に構築し、課題解決に取り組んできた。その結果、担い手不在地域における一般社団法人の設立や子実用トウモロコシの産地化に向けた取り組みなど地域農業の発展に貢献する成果を挙げている。以上、東北農業経済学会賞（木下賞）実践賞推薦要項に規定する「記録」を多数作成したうえで、紫波町の農業の発展に貢献する具体的な取り組みの成果を挙げており、現場に即した研究活動と課題解決活動を実践していることから、東北農業経済学会賞（実践賞）の授与にふさわしいと評価する。

４．学会誌賞

学会誌賞は、第 40 巻第 1 号及び第 2 号に掲載された候補論文 18 編を対象に選考した結果、以下の二つに決定しました。

学会誌賞①

◆受賞者：中村 勝則 氏・櫻井 皓朗 氏・角田 毅 氏・藤井 吉隆 氏

◆対象論文：「集落営農法人における外部雇用と人的資源管理の課題」（第 40 巻第 1 号）

◆受賞理由：本稿は、集落営農法人が集落外の居住者を常時雇用（＝外部雇用）するケースが増加している中で、外部雇用従業員を対象とした組織コミットメントと人的資源管理施策に対する評価を通じて、人的資源管理の課題を明らかにした論考である。秋田県における 3 法人の構成員を対象に、独自の調査データを詳細に分析し、（1）十分なコミュニケーションがない場合、「よそ者」であることの疎外感が組織コミットメントの低下につながる可能性があること、(2) 法人及び従業員の双方が納得できる人事評価の確立、(3) 内部雇用と外部雇用の機会や条件の差の縮小の必要性を指摘するなど、組織マネジメント分野における学術的な意義に加えて、農業経営の現場においても大変示唆に富む研究成果であった。人的資源管理における外部人材の意識を心理的契約事項の履行度や組織コミットメントに対する評価という、より具体的かつ客観的な指標を設けて定量化し、従業員の抱えている心理的な面を含めて詳細に分析した点が高く評価されました。

学会誌賞②

◆受賞者：川﨑 訓昭 氏

◆対象論文：「地域の農地余剰状況と就農経緯を背景とした経営戦略と人材育成－京都市街地近郊の 7 経営体を事例として－」（第 40 巻第 1 号）

◆受賞理由：本稿は、農業者と地域社会との間の相互のニーズに着目し、農業者の就農に至る経緯という内部要因と地域社会からの期待・要望の多寡という外部要因の二つを分析軸として、経営戦略と従業員のキャリア形成に果たす役割を明らかにしている。農業者の職業的自己概念によって形成されるキャリアを「Ⅰ.地域期待型キャ

リア」「II.地域独立型キャリア」「III.独立起業型キャリア」「IV.地域要望型キャリア」の４つに類型化し、京都市近郊７経営体を対象とする詳細な事例研究から、類型別の経営戦略と人材育成について分析した。地域条件と就農の経緯という独自の分析軸を用いて類型化を行っている点に新規性があるとともに、その類型化に基づく詳細な事例分析が高く評価されました。

受賞者のことば

この度は、伝統ある東北農業経済学会木下賞（学術賞）を賜り、誠にありがとうございます。学会賞にご推薦いただきました岡田直樹会員ならびに選考委員会の皆様に厚くお礼申し上げます。退職後にいただけるとは思っていませんでしたので、予期せぬ喜びでした。本書は、私が秋田県立大学に在職した 14 年間に発表した、飼料用米など水田飼料作物の生産と利用に関する経営分析の論考を取りまとめたものです。当時、飼料用米は研究トピックスとして注目される研究対象でしたので、学生の卒業研究として取り組み、発表した論考も卒論が元原稿になっています。本書の研究方法は事例経営の分析に頼ったものですので、現地にはいつもご迷惑をおかけしてきました。この 14 年間で現地調査にご協力いただいた数多くの皆さまに、深く感謝申し上げます。他方、本書が現地の農業経営にどれだけ貢献できたかは心許ない限りです。この受賞が免罪符になるとは思いませんが、なにがしかの貢献のきっかけになれば望外の喜びです。

鵜川 洋樹（秋田県立大学名誉教授）

この度は、伝統ある東北農業経済学会木下賞（奨励賞）を賜り、誠にありがとうございます。身に余る光栄でございます。この場を借りて、ご指導いただいた先生方、調査に応じて下さった女性農業者並びに関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。私はこれまで、女性農業者が農村社会および農業経営における立ち位置の変容、彼女らの活動の世代交代の必要条件を明らかにするための研究に取り組んで参りました。この研究の第一歩となるフィールド調査は東北農業経済学会の研究助成を頂いたからこそ実施できました。また、この研究に関わる学会報告、論文投稿も本学会に大変お世話になりました。その際にご助言いただいた研究者の先輩方、査読の先生方にも御礼申し上げます。日々自分の能力不足に悩んでいる今、研究人生の「原点」である本学会から奨励賞を頂いたことは、私にとって大変重要な意味を持っています。今回の受賞を励みに、もっともっと頑張って、より良い研究ができるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

唐　冠琰（東北大学）

この度は歴史と名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。この受賞は弊社の社員一同だけではなく、弊社に農地を託していただいている皆様、また地域支援型農業で弊社を買い支えてくれている消費者の皆様にとっても喜んでいただけるものです。弊社はこの時代に必要だと思うことを農業を通じて行なっているだけです。ここから先の時代は、土を作るための人をつくらなければいけない農業を形にしていかなければならないと考えています。家族経営と企業農業の２軸にわかれ、それぞれが地域に対してどんな役割をもって何をすべきなのか？という地域ビジョンを支えられる経営体になるために、日々探求しております。今回、今までの軌跡を評価いただけた事は嬉しい限りですが、私がまだまだ実現したいこと・実現しなければならないことの１０％も形になっていません。今後も地域を支える農業経営の在り方を追求し、もっと農業を子供達が憧れる職業にするために邁進していくために、今回の賞はとても励みになるものです。アグリーンハート経営理念【私たちは人・動物・植物・微生物・地球が健康に循環する為の上質な農業を実践し、未来の食を守り、子供達に希望と笑顔を与える楽しい農業で地域を反映に導きます】。私たちに出来ることがあればなんでもご相談ください。この度の受賞、心より感謝いたします。ありがとうございました。

佐藤 拓郎（株式会社アグリーンハート）

この度は、伝統ある東北農業経済学会賞（木下賞）の実践賞を賜り、誠にありがとうございます。現在は、岩手県紫波町で農村政策フェローをやっていますが、前職は、岩手県職員として農業経営研究に 14 年間従事してきました。農業経営研究に従事していたころは、東北農業経済学会で多くの事を学ばせていただき、現在の活動に多いに役立っています。今回の表彰理由を「エビデンスに基づく政策立案とその実践による農業現場の課題解決」と表現していただきました。これまでは、特に計画もなく現場からの要請に応じて場当たり的に調査研究を行い、解決策としてのリーディングプロジェクトを立案し試行し、調査研究成果やリーディングプロジェク

トの評価を産業政策監調査研究として町のホームページで公表してきました。これらの活動が EBPM（Evidence Based Policy Making）の枠組みで整理できることの示唆を受け、活動経過を理論的に再整理することができたと感謝しています。この受賞を励みに、農業経済学に依拠し、EBPM のスキームを適用しながら農業現場の課題解決に精進していきたいと思います。

小川 勝弘（岩手県紫波町）

この度はこのような賞を賜り，誠にありがとうございます。まずはコロナ禍で難しい状況にも関わらず，快く調査にご協力下さった農業法人及びその従業員の方々にお礼申し上げます。そして有益なコメントを下さった査読者の皆様と推薦いただいた編集委員・選考委員の皆様にも感謝申し上げます。そして，いささか違和感を感じられるかもしれませんが，共著者の皆様へのお礼もあえて書かせていただきます。この論文を執筆するきっかけとなったのは，ある集落営農法人で集落外出身の従業員の方からお話を伺った際，疎外感を感じているような言動が印象に残ったことでした。なぜそのようになるのか分析する方法で悩んでいた時，「心理的契約」および「組織コミットメント」という概念の存在を教えて下さったのが角田毅さんと藤井吉隆さんでした。また，当時秋田県立大学の４年生だった櫻井皓朗さんには調査票の設計や聞き取り調査，分析において協力をいただきました。ありがとうございました。もう少し調査を進めてからとも思いましたが，区切りをつけて投稿してよかったと感じております。今回の受賞を励みに，さらに努力して参りたいと思います。引き続きよろしくお願い申し上げます。

中村 勝則（秋田県立大学）

この度は、伝統ある東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）を賜り、誠にありがとうございます。学会誌賞にご推薦いただきました編集委員・選考委員会の皆様に感謝申し上げます。また、論文審査にあたり、貴重なご指摘をいただきました査読者の方に厚く御礼申し上げます。本論文は、農業者と地域社会との間の相互のニーズについて、農業者からは農業への職業選択志向、地域社会側からは地域の農地の受け手という２つのニーズを軸として分析した論考です。就農及びその後の定着・安定化には依然として農地のある地域からの理解が不可欠な現状です。今回の受賞は、勤務先のスーパーバイザーである長濱健一郎会長から賞状拝受、中村勝則会員と同時受賞とこの上ない喜びであり、農業と地域社会の関わりを研究してきた研究室の成果と感謝しております。この受賞を励みにして、秋田の地から地域の農業をどうデザインするかについて、東北農業経済学会の会員の皆様と切磋琢磨しながら研究に精進したいと思います。

川﨑 訓昭（秋田県立大学）

左から、唐 氏、佐藤 氏、鵜川 氏、小川 氏、中村 氏
※2023. 9. 23 授賞式にて（川﨑氏はご欠席）。

論文投稿のご案内

編集委員会では、多くの会員の皆さんからの論文投稿をお待ちしています。原稿は和文・英文どちらでも結構です。学会ホームページからダウンロードできる「論文投稿用テンプレート」を基に論文を作成し、論文投稿用メールアカウントに投稿票とともにお送りください。

論文投稿用メールアカウント：
submission_jrse@grp.tohoku.ac.jp

詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧下さい。論文投稿に関する問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』
編集担当理事　平口 嘉典　あて
女子栄養大学 食料・地域経済学研究室
〒350-0288 埼玉県坂戸市千代田３丁目９−２１
TEL/FAX 049-282-4782
E-mail hiraguti@eiyo.ac.jp

編集後記

◆Newsletter 最新号をお届けします。原稿執筆にご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。◆次号 2024 年春号は５月頃の発行予定です。（T）

東北農業経済学会　役員(理事・監事・評議員)・顧問

2022年8月27日総会承認　任期:2022年9月1日～2024年8月31日

役職	選出枠	常務理事	県担当	氏名	所属	担当
理事	青森	○		泉谷　眞実	弘前大学	副会長（企画担当理事）
理事	青森		○	石塚　哉史	弘前大学	
理事	岩手		○	新田　義修	岩手県立大学	
理事	岩手			前山　薫	岩手県農業研究センター	
理事	宮城	○		川島　滋和	宮城大学	副会長（学会誌担当理事）
理事	宮城		○	角田　毅	東北大学	
理事	宮城			大和田　祥代	宮城県農政部	
理事	秋田	○		長濱　健一郎	秋田県立大学	会長（研究助成担当理事）
理事	秋田	○	○	上田　賢悦	秋田県立大学	庶務担当理事
理事	山形			藤科　智海	山形大学	
理事	山形		○	遠藤　宏幸	山形県農林水産部	
理事	福島		○	荒井　聡	福島大学	
理事	福島			朽木　靖之	福島県農業総合センター	
理事	新潟		○	伊藤　亮司	新潟大学	
理事	新潟	○		斎藤　順	新潟食料農業大学	学会誌事務担当理事
理事	農研	○		迫田　登稔	東北農業研究センター	副会長（学会賞担当理事）
理事	農研			笹原　和哉	東北農業研究センター	
理事	域外			宮入　隆	北海学園大学	
理事	域外			福田　竜一	宇都宮大学	
理事	域外			藤井　吉隆	愛知大学	
理事	域外			椿　真一	愛媛大学大学院	
理事	会長氏名	○		水木　麻人	東北大学	企画担当理事
理事	会長氏名	○		高山　太輔	福島大学	広報・Web管理担当理事
理事	会長氏名	○		平口　嘉典	女子栄養大学	編集担当理事
理事	会長氏名	○		安江　紘幸	農研機構本部企画戦略本部	学会賞事務担当理事
理事	会長氏名	○		滝口　沙也加	宮城大学	庶務担当理事
理事	会長氏名	○		豆野　皓太	東北大学	事務局担当理事
理事	会長氏名	○		Eustadius Francis MAGEZI	東北大学	事務局担当理事
監事				菊地　敬子	仙台農業改良普及センター	
監事				森田　明	宮城大学	
評議員	青森			須藤　充	青森県産業技術センター農林総合研究所	
評議員	青森			成田　澄人	青森県農林水産部	
評議員	岩手			前山　薫	岩手県農業研究センター	理事兼務
評議員	岩手			羽柴　郁夫	岩手県農業協同組合中央会	
評議員	岩手			伊藤　一成	岩手県農林水産部	
評議員	宮城			高橋　慎	宮城県農業協同組合中央会	
評議員	宮城			北奥　真一	宮城県農政部	
評議員	宮城			林田　啓	農林水産省東北農政局	
評議員	秋田			近藤　悦応	秋田県農業協同組合中央会	
評議員	秋田			佐藤　大祐	秋田県農林水産部	
評議員	山形			大武　義孝	山形県農業協同組合中央会	
評議員	山形			佐藤　寧	山形県農業総合研究センター	
評議員	山形			柴田　雅孝	山形県農林水産部	
評議員	福島			今泉　仁寿	福島県農業協同組合中央会	
評議員	福島			佐藤　睦人	福島県農業総合センター	
評議員	福島			二宮　信明	福島県農林水産部	
評議員	新潟			堀　正和	元一般社団法人新潟県農業会議	
評議員	新潟			高橋　尚紀	新潟県農業協同組合中央会	
顧問				前島　明成	農林水産省東北農政局	